

全日本ベスト塗装店・敢闘賞

ペイントショップ栄和代表取締役

# 伊藤文義さん



日本建築塗装職人の会が主催する「全日本ベスト塗装店2008」でこのほど、全国の優良塗装店、リフォーム店の中から敢闘賞に選ばれた。

同社では地域の人に月一回、全社の情報などを記した「ニュースレター」を送付するなど積極的な広報活動を行っている。顧客とこまめにコンタクトをとることで職人との密接な信頼関係を築いており、こうした取り組みが評価された。

日々の努力は裏切らないといことをあらためて知った。評価が

ある。だから情報を

うれしい」と受賞の喜びを伝える。

近年、住関連の悪徳業者が増加しており、地域でも被害事例を聞くことが多い。

昔ながらの職人は、確かな腕を持っていて、口下手でアピールできない。悪徳業者による被害のない、安全安心な生活を提供するために、各職人がアピールしていかなければならない時代、特に住宅関係の工事、住民には分かりにくいものが多いので、どんな会社か、どんな仕事をしているかをまず理解してもらうことから始める必要がある。だから情報を

発信していく」と語り、謙な思いをもち、人には地元の人にも積極的に、誰にも好まれない、腕の良い職人が地元にいることを知っている、と語気を強める。

受注現場では、職人たちがあややかな笑顔と明るいまわりの挨拶で顧客に接している。

「一般的に持たれているイメージとは違うので、職人ばつな職人たちが」と笑う。

「最高の成功は人に喜んでもらうこと、塗装で人々の笑顔につながっていくのみに真摯に、」

「腕の持っている悪徳業者の

「最高の成功は人に喜んでもらうこと、塗装で人々の笑顔につながっていくのみに真摯に、」

「腕の持っている悪徳業者の

いとう・ふみよし。40歳。富士宮市内野在住。内野に本社、大岩に営業所を持つ「(有)ペイントショップ栄和」の代表取締役を務める。15歳で塗装の世界へ。「完成後、お客さんが喜んでくれることが何よりもうれしかった」。技術を学ぶ中で「もっとお客さんと直接やり取りができる、人間くさい仕事がいい」との思いを抱くようになり、22歳で独立、住宅塗装を専門に請け負うようになる。現在、社員は七人。好きな言葉は「ありがとうございます」。趣味は和太鼓で、地元の「人穴富士浅間太鼓」に所属している。

「塗装で地域に貢献した人」